

インフルエンザ Q&A

平成15年度版

(平成15年10月改訂版)

国立感染症研究所感染症情報センター
厚生労働省健康局結核感染症課
日本医師会感染症危機管理対策室

[一般の方々のために]

- Q. 1: インフルエンザと普通のかぜはどう違うのですか？
- Q. 2: インフルエンザにはどんな種類がありますか？
- Q. 3: インフルエンザにかかるとどんな症状が出るのですか？
- Q. 4: インフルエンザにかかったらどうすればよいのですか？
- Q. 5: インフルエンザにかからないためにはどうすればよいのですか？
- Q. 6: インフルエンザの予防接種は効果がありますか？
- Q. 7: インフルエンザの予防接種は何回受ければよいのでしょうか？
- Q. 8: インフルエンザの予防接種が1回でもよいのはどのような場合でしょうか？
- Q. 9: 乳幼児や高齢者はどんなことに気をつければよいのですか？
- Q. 10: インフルエンザの予防接種の費用はどうなるのですか？
- Q. 11: インフルエンザワクチンで著しい健康被害が発生した場合は、どのような対応がなされるのですか？
- Q. 12: 新型インフルエンザが現れるとどうなるのでしょうか？
- Q. 13: 今年のインフルエンザシーズンにSARS(重症急性呼吸器症候群)が再び流行するという噂は本当ですか？
- Q. 14: SARSとインフルエンザはどう違うのですか？
- Q. 15: SARSにはインフルエンザとは違った用心が必要ですか？
- Q. 16: インフルエンザシーズン中に、どこかでSARSの再発生が起こった場合どうすればいいのですか？
- Q. 17: 旅行先などで突然SARSの再発生が起こり、帰国後症状が出た場合どうすればいいのですか？

[医療従事者の方のために]

インフルエンザ総論、ウイルス

- Q. 1: インフルエンザはかぜとどう違うのですか？
- Q. 2: インフルエンザの流行の歴史について教えてください
- Q. 3: インフルエンザウイルスについて教えてください。
- Q. 4: インフルエンザウイルスのH、Nの番号は何を表しているのですか？
- Q. 5: インフルエンザウイルスの変異について教えてください。
- Q. 6: インフルエンザにかからないためにはどうすればいいですか？

臨床症状一般・診断治療

- Q. 7: インフルエンザの症状と診断方法について教えてください。
- Q. 8: 合併症について教えてください。

Q. 9: インフルエンザに罹ったときの発熱に使う解熱剤について教えてください。

Q.10: インフルエンザにはどんな治療法がありますか？

Q.11: インフルエンザの予防薬や治療薬はありますか？

予防接種

Q.12: インフルエンザの予防接種はいつごろ受けると効果的でしょうか？

Q.13: インフルエンザの予防接種は効果がありますか？

Q.14: インフルエンザの予防接種は何回受ければよいのでしょうか？

Q.15: 昨年インフルエンザの予防接種を受けたのですが今年も受けた方がよいでしょうか？

Q.16: 特に予防接種を受けた方がよいのはどのような人でしょうか？

Q.17: インフルエンザの予防接種を受けることが適当でないのはどんな場合ですか？

Q.18: 妊婦はインフルエンザの予防接種を受けることができますでしょうか？

Q.19: インフルエンザワクチンはどのようにつくられているのですか？

Q.20: 卵アレルギーのある人にインフルエンザの予防接種はできるでしょうか？

Q.21: インフルエンザの予防接種をしたときの副反応にはどんなものがありますか？

Q.22: インフルエンザの予防接種の費用はどのようになりますか？

Q.23: インフルエンザワクチンで健康被害が発生した場合は、どのような対応がなされるのですか？

インフルエンザの流行

Q.24: 今年流行するインフルエンザはどの株ですか？

Q.25: 今、私の住む地域ではやっているインフルエンザはどの株ですか？

Q.26: どのくらいの人がインフルエンザにかかっていますか？

Q.27: インフルエンザ流行のピークはいつですか？

Q.28: インフルエンザは外国でもはやっていますか？

予防接種法改正関係

Q.29: 平成 13 年の予防接種法の改正でインフルエンザの予防接種はどのように変わったのですか。

Q.30: 予防接種は誰でも受けられるのですか。

Q.31: 今年 65 歳になるのですが、いつから予防接種法定期接種の対象になるのでしょうか。

Q.32: 私は 50 歳で、予防接種法定期接種の対象外なのですが、インフルエンザの予防接種を受けることができますのでしょうか。

Q.33: 予防接種法に基づく接種対象になると、必ず受けなければならないのですか。

Q.34: 予防接種を受けたいのですが、いくらかかるのでしょうか。

Q.35: 住民票と異なるところに長期滞在しているのですが、現在地で予防接種を受けることはできますか。

Q.36: 痴呆の方にも予防接種を受けさせることはできますか。

インフルエンザとSARS

Q.37: 今年のインフルエンザシーズンにSARS(重症急性呼吸器症候群)が再び集団発生するという噂は本当ですか？

Q.38: SARSとインフルエンザはどう違うのですか？

Q.39: インフルエンザシーズン中に、どこかでSARSの再発生が起こった場合どうすればいいのですか？

Q.40: 旅行先で突然SARSの再発生が起こり、帰国後症状が出た場合どうすればいいのですか？

Q.41: 今冬のSARSの再発生に備えて準備しておかなければならないことがありますか？

Q.42: SARSアラートとは何ですか？

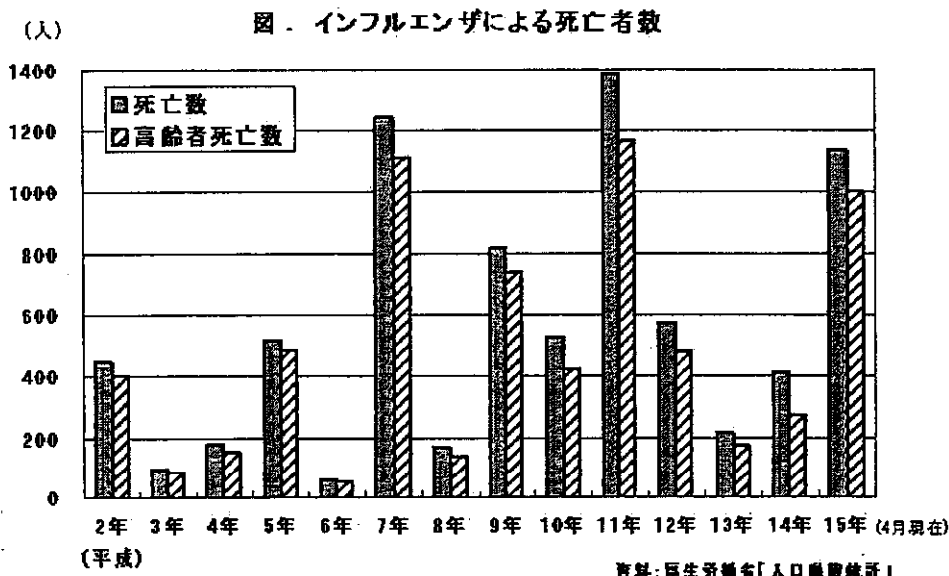
インフルエンザ Q&A



Q.1: インフルエンザと普通のかぜはどう違うのですか？

普通のかぜとインフルエンザを混同してはいませんか。普通のかぜの症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳(せき)などが中心で、全身症状はあまり見られません。発熱もインフルエンザほど高くなく、重症化することはほとんどありません。

一方、インフルエンザの場合は 39℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、あわせて普通のかぜと同様の、のどの痛み、鼻汁などの症状も見られます。さらに、気管支炎、肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを併発し、重症化することがあるのもインフルエンザの特徴です。また、インフルエンザは、基本的に流行性疾患であり、一旦流行が始まると、短期間に乳幼児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込むという点でも普通のかぜとは異なります。更に冬季は他のシーズンに比べて呼吸器感染症による死亡者が多いのですが、インフルエンザが流行すると高齢者の死亡率がふだんより高くなるという点でも大きな違いが見られます。



Q.2: インフルエンザにはどんな種類がありますか？

抗原性の違いから、インフルエンザウイルスはA型、B型、C型に分類されます。また、A型はさらにウイルスの表面の抗原性の違いにより亜型に分類されます。いわゆるA/ソ連型、A/香港型というのは、この亜型のことです。インフルエンザ

の発症が防げるかどうかは、それぞれの人のからだにそれぞれのウイルスの種類に対して、防御のための抗体を持っているかどうかで鍵(かぎ)を握ります。現在、ヒトの世界で広く流行しているのは、A/ソ連型ウイルス(H1N1亜型)、A/香港型ウイルス(H3N2亜型)、B型ウイルスの3種類です。

Q. 3: インフルエンザにかかるとどんな症状が出るのですか？

突然の高熱、悪寒を症状とした発症が典型的です。鼻汁、鼻づまり、くしゃみ、せき、のどの痛みなどといった普通のかぜでもみられる症状のほかに、関節痛、筋肉痛等も加わります。気管支炎や肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを合併することもまれではありません。

また、高齢者や呼吸器・心臓などに慢性の疾患を持つ人は、重症化することが多いので十分注意する必要があります。近年、小児ごとに、幼児がインフルエンザにかかると、まれに急性脳症を併発して死亡するといった問題も指摘されています。

Q. 4: インフルエンザにかかったらどうすればよいのですか？

- ・ 単なるかぜだと軽く考えずに、早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。
- ・ 安静にして、休養をとりましょう。特に睡眠を十分にとることが大切です。
- ・ 空気が乾燥するとインフルエンザにかかりやすくなりますので、部屋の湿度を保ちましょう。
- ・ 水分を十分に補給しましょう。お茶、ジュース、スープなど飲みたいもので結構です。

なお、早めに治療することは、自分のからだを守るだけでなく、他の人にインフルエンザをうつさないという意味でも大変重要なことです。

インフルエンザウイルス治療薬としての抗ウイルス薬が使用できるようになりました。また、インフルエンザにかかったことにより、他の細菌にも感染しやすくなりますが、このような細菌の混合感染による肺炎、気管支炎などの合併症に対する治療として抗生物質が使用されます。これらの薬の効果については、インフルエンザの症状が出はじめてからの時間や体の状態により異なります。使用する、しないは医師の判断となりますので十分に医師に相談することが重要です。なお、いわゆる「かぜ薬」と言われるものは、発熱や鼻汁、鼻づまりなどの症状をやわらげることはできますが、インフルエンザウイルスや細菌に直接効くものではありません。

Q. 5: インフルエンザにかからないためにはどうすればよいのですか？

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることで、これは欧米では一般的な方

法になりつつあります。また、罹患した場合に重症化する可能性の高い人には、重症化防止の方法としても有効です。インフルエンザは、インフルエンザにかかった患者の咳(せき)などで空気中に拡散されたウイルスを鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきたら、人込みは避けましょう。特に高齢者や慢性疾患を持っている人や、疲れていたり、睡眠不足の人は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。罹患したとき重症化する可能性が高くなります。

空気が乾燥すると、インフルエンザに罹患しやすくなります。外出時にはマスクを利用したり、室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ちましょう。常日ごろからバランスよく栄養をとることも大切です。帰宅時のうがい、手洗いは、かぜの予防と併せておすすめします。

Q. 6: インフルエンザの予防接種は効果がありますか？

予防接種を受けないでインフルエンザにかかった人の70%から80%の人は、インフルエンザの予防接種を受けていれば、インフルエンザにかからずにすむか、かかっても症状が軽くてすむという有効性が証明されています。特に高齢者の場合は、インフルエンザによる入院・死亡を減らすことが証明されています。

WHOが推奨した株を基本にして我が国の流行状況などから予測して作られた我が国のインフルエンザワクチンは、この約10年間、予測と流行したウイルス株はほぼ一致しており、有効なワクチンが作られています。

Q. 7: インフルエンザの予防接種は何回受ければよいのでしょうか？

現在、日本で行われているインフルエンザの予防接種に使用するインフルエンザHAワクチンについては、平成12年4月に中央薬事審議会において最近の研究成果を踏まえ、接種回数の見直しにつき審議が行われ、用法・用量は以下のようになっています。

13歳以上	0.5mlを皮下に、1回又はおよそ1～4週間の間隔において2回接種する
6歳～13歳未満	0.3mlを皮下に、およそ1～4週間の間隔において2回接種する
1歳～6歳未満	0.2mlを皮下に、およそ1～4週間の間隔において2回接種する
1歳未満	0.1mlを皮下に、およそ1～4週間の間隔において2回接種する

Q. 8: インフルエンザの予防接種が1回でもよいのはどのような場合でしょうか？

65歳以上の高齢者に対しては1回の接種でも十分効果があるとする研究結果が得られており、1回接種でよいと考えられます。

13歳以上64歳以下の方でも、近年確実にインフルエンザに罹患していたり、昨年インフルエンザの予防接種を受けている方は、1回接種でも追加免疫による十分な効果が得られる方もあると考えられます。接種回数が1回か2回かの最終的判断は、接種する医師の判断によりますので、接種の際にはこれまでのインフルエンザにかかったことのあるなし、ワクチン接種のあるなしとその時期、そして現在の体調などを担当医師に十分伝え、相談して下さい。

なお、予防接種法により、「65歳以上の方」、「60歳から64歳までの方で、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の周りの生活を極度に制限される方、又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方」については、年1回、定期の予防接種を受けることができ、万が一予防接種による健康被害にあっても予防接種法による救済制度が適用されます。

Q.9: 乳幼児や高齢者はどんなことに気をつければよいのですか？

乳幼児、ことに幼児でのインフルエンザの合併症で気を付けなければならないものとして、急性脳症の発症の問題が指摘されています。その徴候として水分をとったあとすぐに吐いてしまい元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こすなどがあります。この様な症状がみられるときなどにはすぐに医療機関に相談して下さい。

高齢者は流行前に予防接種を受けましょう。これはインフルエンザ予防の基本となります。また、インフルエンザが流行しているときは、人込みへの外出は避けましょう。特に、疲れている時や睡眠不足の時に無理に外出するのは避けましょう。

また、同居している人、世話をしている人も予防接種を行うなどの対策をとって、ウイルスを持ち込まないようにすることをお勧めします。

Q.10: インフルエンザの予防接種の費用はどうなるのですか？

予防接種については、保険適用がないため、原則的に全額自己負担となります。

ただし、「65歳以上の方」、「60歳から64歳までの方で、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の周りの生活を極度に制限される方、又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方」については、予防接種法上の定期の予防接種が受けられ、市町村によっては、費用の一部を公費で負担しているところもあります。（予防接種法上の対象者の範囲及び接種費用の詳細については、市町村にお尋ね下さい。）

Q.11: インフルエンザワクチンで著しい健康被害が発生した場合は、どのような対応がなされるのですか？

予防接種により健康被害が生じた場合は、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構法による被害救済の対象となります。健康被害の内容、程度等に応じて、薬事・食品衛生審議会(副作用被害判定部会)での審議を経た後、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金、遺族一時金などが支給されます。詳細な内容は、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構(TEL:03-3506-9411)にご照会ください。

前述(Q.10)の予防接種法上の定期の予防接種により健康被害が生じた場合は、予防接種法による被害救済の対象となります。詳しくは後述の「予防接種法改正関係」をご覧ください。

Q.12: 新型インフルエンザが現れるとどうなるのでしょうか？

インフルエンザの流行の歴史をみると、かつてのスペインかぜ(A/H1N1 亜型)が現れたときは、大規模な流行と甚大な数の死者を出しました。新型インフルエンザが流行した場合、これに対して免疫を持っている人はいませんし、また事前に接種された予防接種の効果は乏しいので、かなりの数の罹患者と死亡者がでることが予想され、アメリカでは8~20万人の死者がでると予測されています。わが国では3~4万人の死者が出るのが懸念されます。

1997年、香港で新型インフルエンザ(A/H5N1 亜型)ウイルスによる患者の発生が報告されました。入院加療を受けた18症例中6例が肺炎の合併などにより死亡し、香港政府は1997年12月末、140万羽のニワトリを殺処分しました。このウイルスはヒトからヒトに感染したのではなく、恐らく感染しているニワトリからヒトに感染したものと考えられます。2003年にも、中国南部へ旅行した家族の感染が報告されています。

しかし、このままH5N1ウイルスがヒトの前から姿を消してしまうのか、あるいは再び勢いを盛り返して流行するかは予断を許さず、さらにまたどのようなメカニズムでトリのウイルスが直接ヒトへ感染を起こしたのか、解明が必要です。またこうした経路以外の感染の可能性なども十分に予想されます。

厚生労働省では、1997年に策定した新型インフルエンザ対策について、現在、新型インフルエンザ対策に関する検討小委員会を開催し、その後の医療状況を踏まえた改訂作業を行っています。

Q.13: 今年のインフルエンザシーズンにSARS(重症急性呼吸器症候群)が再び流行するという噂は本当ですか？

結論から言えば、これは世界中のだれにもわかりません。再び流行すると危惧されている理由は幾つかありますが、SARSコロナウイルスはもともと野生動物がもっていて、それがヒトに感染したと考えられており、もしそうであるならば、再び同様のことがおこらないとは限らないことや、既知のコロナウイルスはインフルエンザと同じ冬季に流行することが知られていることから、もしSARSコロナウイルスも

同様の性質をもっていれば、冬になると流行する可能性があること、また、前回の世界的な集団発生が冬季に始まっていること、SARSコロナウイルスが低温に強いことが実験で示されていることなどがあります。

Q.14: SARSとインフルエンザはどう違うのですか？

SARSはSARSコロナウイルス、インフルエンザはインフルエンザウイルスによる感染症で、まったく違う病原体によるものですが、初発症状は、突然の高熱、筋肉痛、全身倦怠感など極めてよく似ており、症状からは区別はつきません。インフルエンザは通常1週間前後で軽快しますが、SARSの場合には発熱は持続し、発病第2週頃より呼吸器症状が強くなり、10～20%は人工呼吸器が必要なほど重症化します。しかしながら、インフルエンザであっても重症になれば肺炎を併発しますし、SARSも軽症であれば、1週間程度で軽快しますので、単純に症状のみから区別することはできません。従ってSARSを疑うときには、実際にSARS患者と濃厚な接触をしたか、介護したか、同居したか、あるいはその体液に接触したかなどの情報が重要となります。両者を見分けるためには、医療機関において各種検査を行いその結果などから総合的に判断することが必要です。

また、インフルエンザは感染してから1～3日で症状が出てきますが、SARSは感染してから発症するまで(潜伏期)に2～10日かかります。そして、インフルエンザは発症早期に感染力が最も強いことが知られていますが、SARSは発病第2週の肺炎期に最も感染力が強くなります。

Q.15: SARSにはインフルエンザとは違った用心が必要ですか？

平成15年10月初旬現在では、世界にSARSの感染が確認されている地域はありませんので、神経質になる必要はありません。毎年冬季にはインフルエンザが流行しますが、もしも再びSARSの発生があった場合には、急に発熱する疾患はすべてSARSに感染しているかどうか心配する原因に十分なり得ますので、インフルエンザの予防接種などをしておくとともに、体調の維持に心がけ、外出から帰ったらうがいと手洗いを励行すると言った基本的な予防法が重要です。また、このような自己を守るための心配りとともに、咳などがあれば、ヒトに感染させないように、咳をするときには、ハンカチやティッシュなどで口元を覆うとか、あるいはマスクをする等により、周囲の方も守るということも非常に重要です。

特に医療機関を受診する際には、他の患者に感染させないように、必ずマスクを着用してください。

参考:「2003-04シーズンのインフルエンザ予防接種:SARSへの配慮を含めた提言」
<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/sars03w/07infl-vc.html>

Q.16: インフルエンザシーズン中に、どこかでSARSの再発生が起こった場合どう

すればいいのか？

世界のどこかでSARSの再発生が確認された場合、WHOが即座に前回と同じように世界に向けて警告を発信します。その時点の状況に応じて、SARSの発生が確認された地域への不要不急の旅行を避けるとか、その地域から帰国された方は前回と同じように10日間は体温を測定し、体調に異常が見られた場合には、保健所や医療機関等に電話で相談した上で受診して頂く、などといった対応をとることになります。

Q.17: 旅行先などで突然SARSの再発生が起こり、帰国後症状が出た場合どうすればいいのか？

インフルエンザなどであった場合にも有効ですので、まずマスクをして、周囲の方に感染させないように配慮し、保健所や医療機関などに電話で相談された上で、受診していただくことが大切です。SARSは発症早期の数日間は感染性が低いと考えられていますが、このような場合には公共の交通機関はできれば避けるのが望ましいと考えられます。